



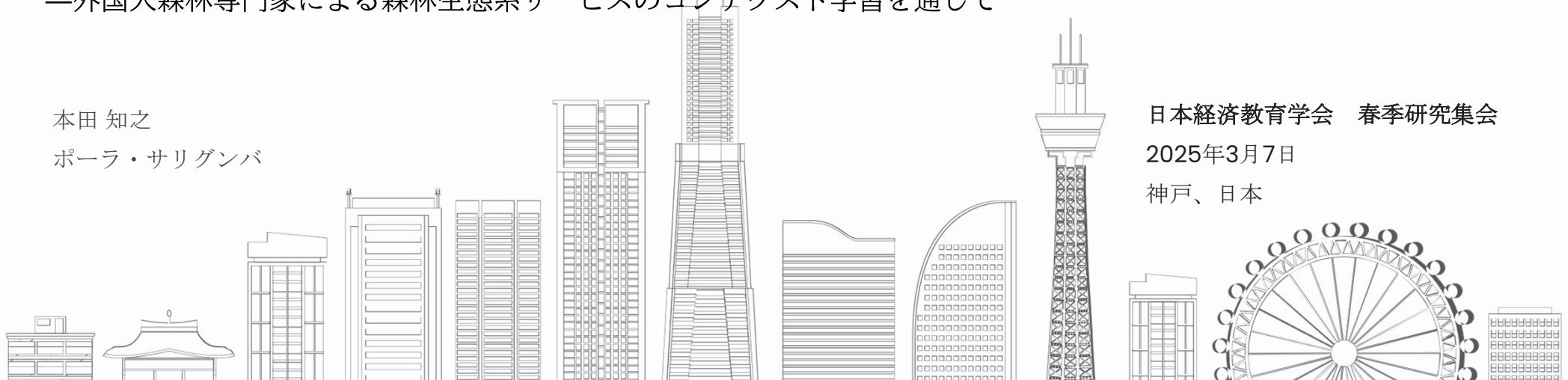
What did urban residents learn and think from contextual education on forest ecosystem services provided by a non-Japanese forest specialist?

都市住民への森林環境教育の効果の検証

—外国人森林専門家による森林生態系サービスのコンテクスト学習を通じて

本田 知之

ポーラ・サリグンバ

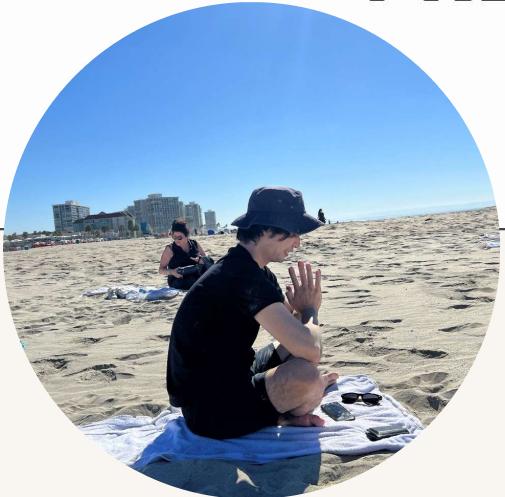


日本経済教育学会 春季研究集会

2025年3月7日

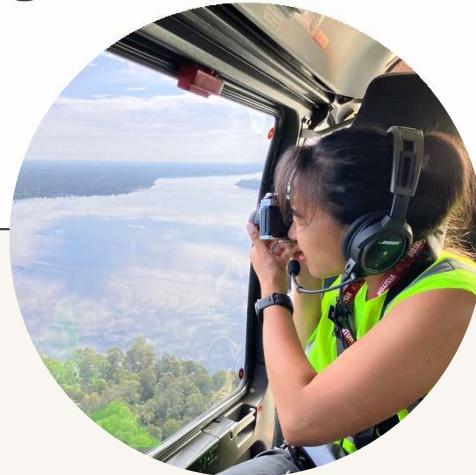
神戸、日本

PRESENTERS



- 林野庁で森林関係の政策を担当
- 森林総合監理士（フォレスター）
- 専門分野は、計量経済学

本田 知之



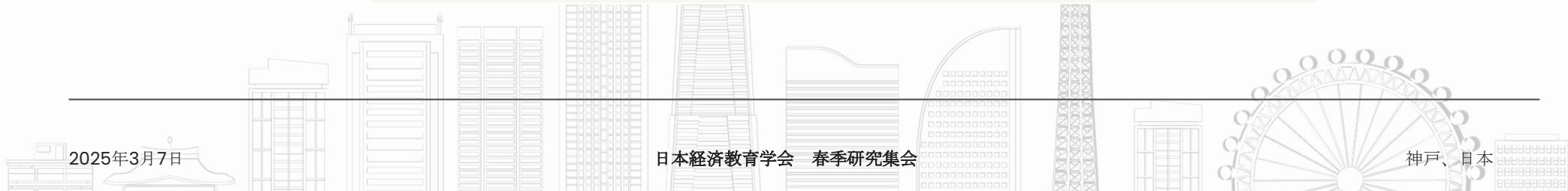
- 国際熱帯木材機関 (ITTO) コミュニケーション&アウトリーチオフィサー
- コミュニティ林業と若者参画を専門とする
フィリンピン人フォレスター

ポーラ・サリグンバ



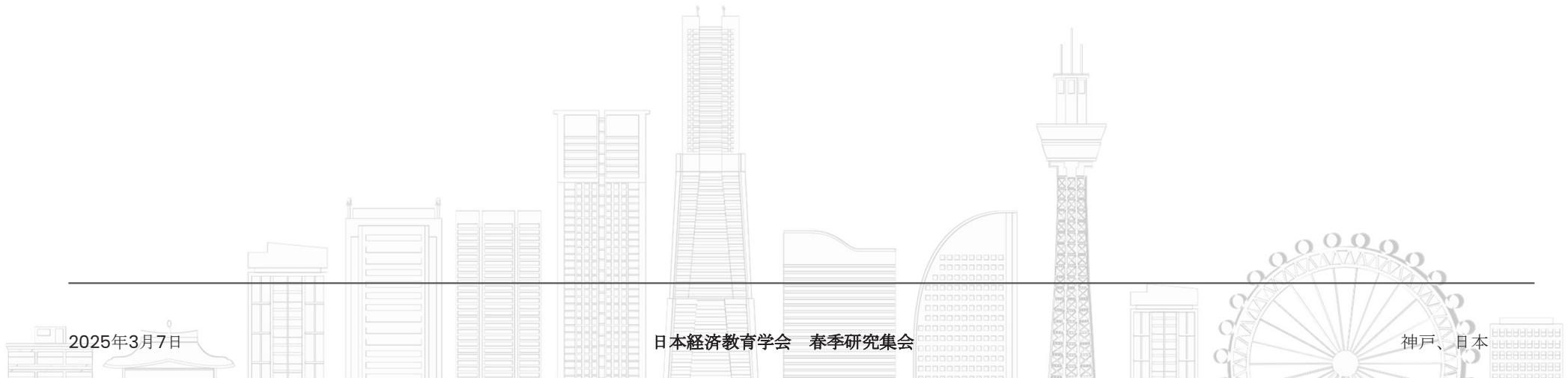
TOPICS

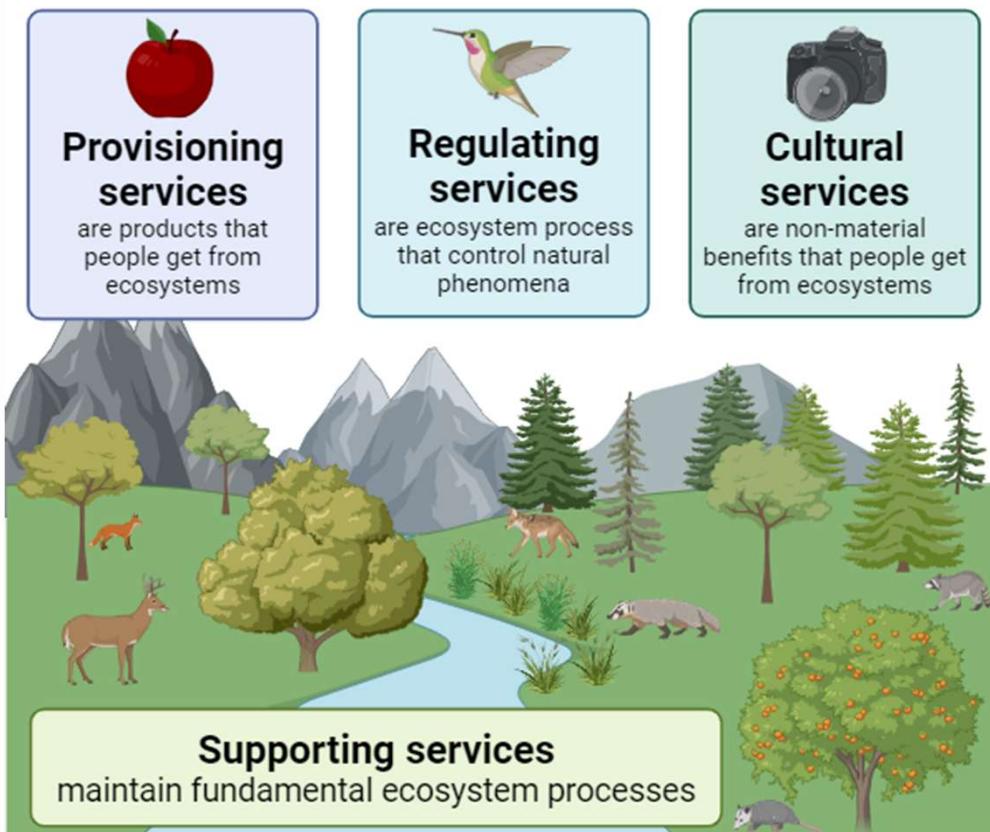
- はじめに
- 先行研究
- ワークショップの概要
- アンケートの結果と考察
- 講師のリフレクション
- まとめ





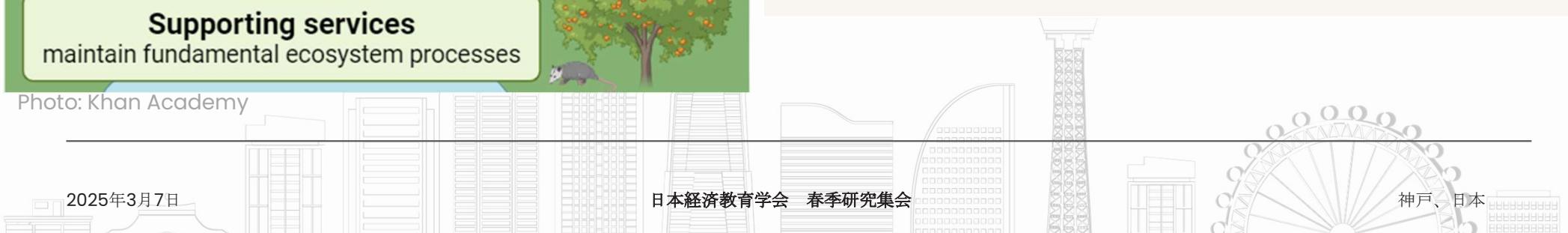
はじめに



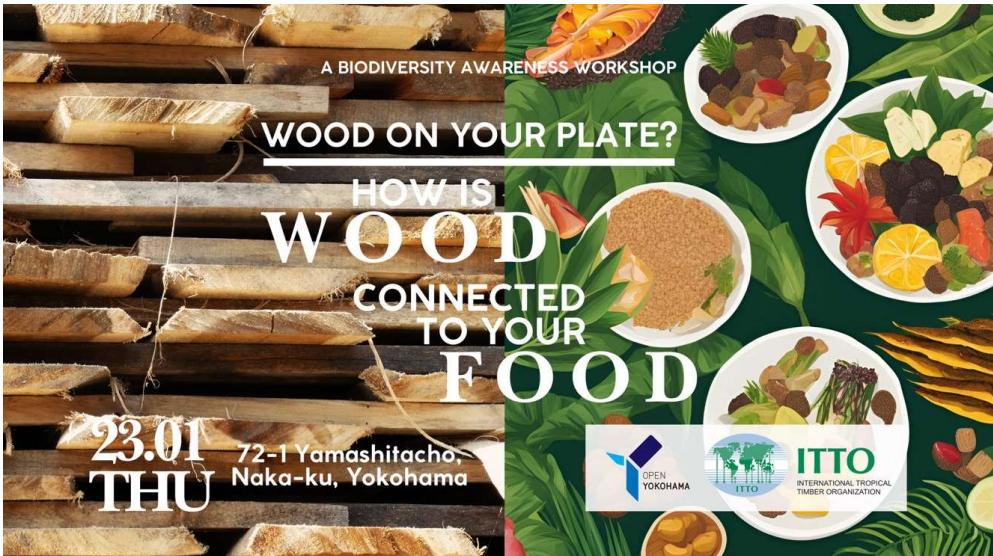


都市住民と森林の間の人と自然の関係

- 森林、特に熱帯林は、都市を支える重要な生態系サービスを提供している。例えば、木材供給、炭素の吸収、水質や空気の浄化、自然災害の防止、そして感染症の拡散防止など。
- しかし、都市住民の森林生態系サービスに対する知識や認識には大きなギャップがある……



森林生態系サービスへの認識を高めるための参加型ワークショップを開催！



- 横浜市役所の職員向け生物多様性研修の一環として、生物多様性と社会と森林のつながりを伝えるワークショップをITTO & 横浜市のコラボにより開催
- ワークショップの講師は外国人専門家 **Paula** さん
- ワークショップの焦点：
熱帯林とその生態系サービス
持続可能な森林管理と生物多様性や地球の健康のつながり
- 自身の日常生活や将来展望における森林の恩恵を感じるための振り返りやグループワークなどのコンテクスト学習を提供

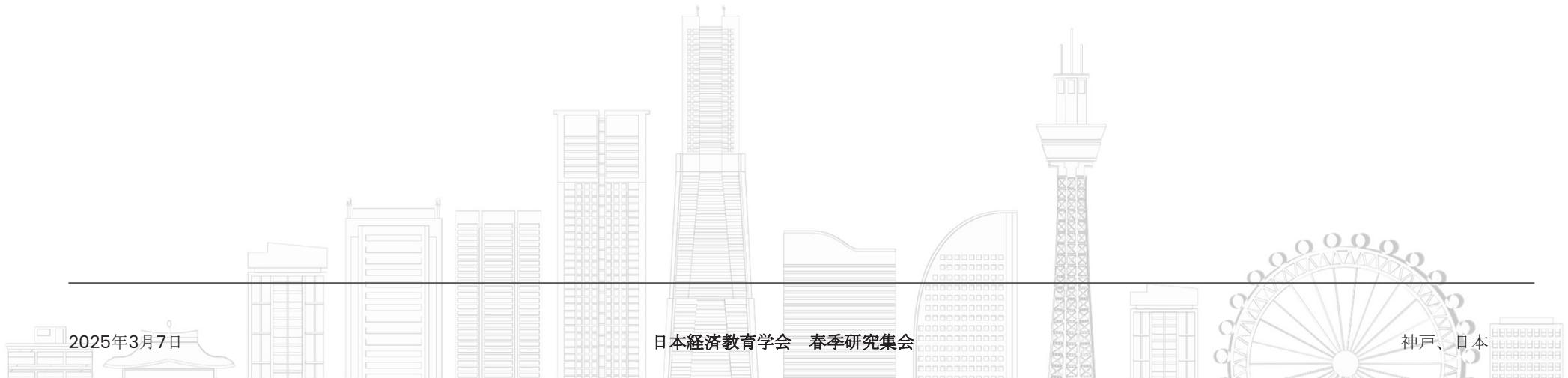


日本経済教育学会 春季研究集会

神戸、日本



先行研究



【質問】あなたは、ここ1年くらいの間に、何回くらい森林に行きましたか。?

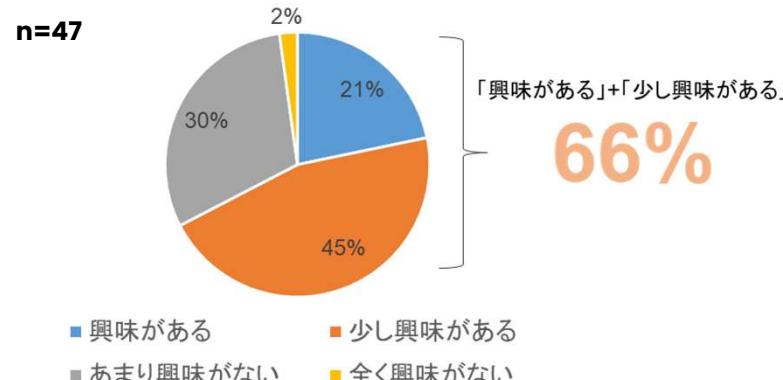
in Japan

n=1624

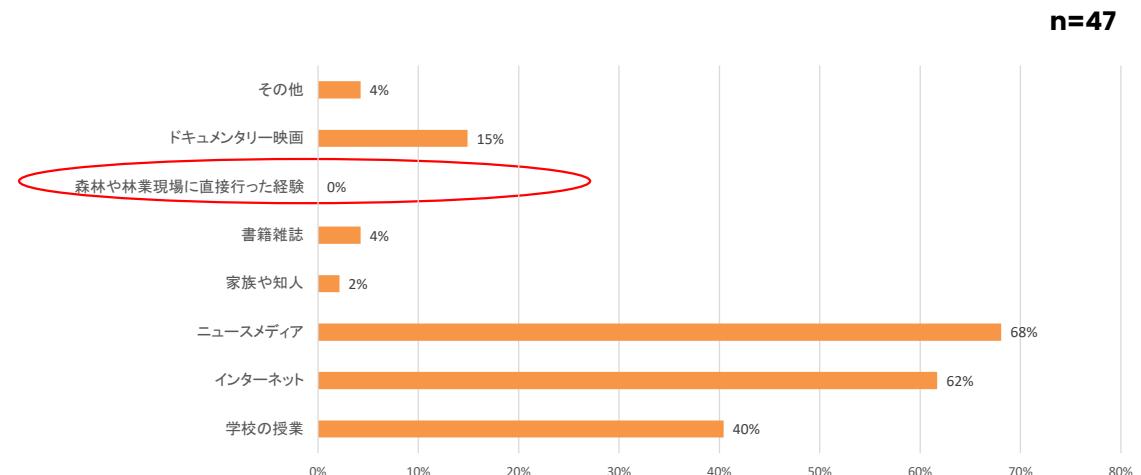
(表頭項目)	該当者数	1. 1~2回	2. 3~4回	3. 5~12回	4. 13回以上	5. 行っていない	無回答
総数	1624	22.5	12.1	8.1	5.4	47.4	4.4
[都市規模]							
大都市（小計）	460	22.4	11.3	7.6	3.9	48.5	6.3
東京都区部	114	28.1	7.9	8.8	0.9	48.2	6.1
政令指定都市	346	20.5	12.4	7.2	4.9	48.6	6.4
中都市	644	21.6	13.5	8.4	5.3	48.4	2.8
小都市	368	23.1	11.4	9	6.8	45.4	4.3
町村	152	25	10.5	6.6	7.2	44.7	5.9

出典：内閣府「森林と生活に関する世論調査（令和5年10月調査）」を基に筆者作成

【質問】森林にどれくらい興味がありますか？



【質問】森林や林業に関する情報をどこで得ていますか？

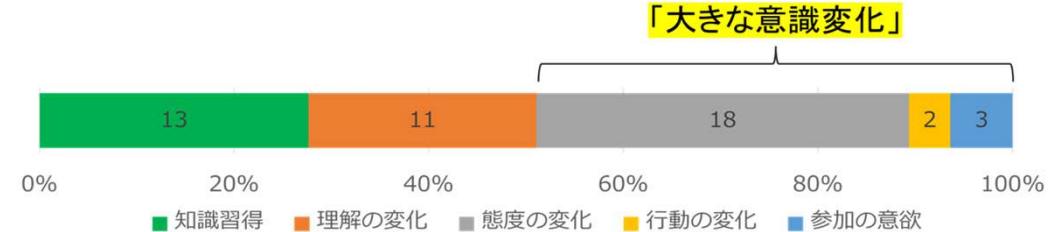


出典：本田、川上、佐藤、赤石、土居「日本の森林資源・林業の実態から都内の大学生は何を学べたのか？－資源経済教育の実践的な価値と教育上の課題」第40回経済教育学会全国大会 2024年9月

国内の森林分野実務者からの東京の学生への講義

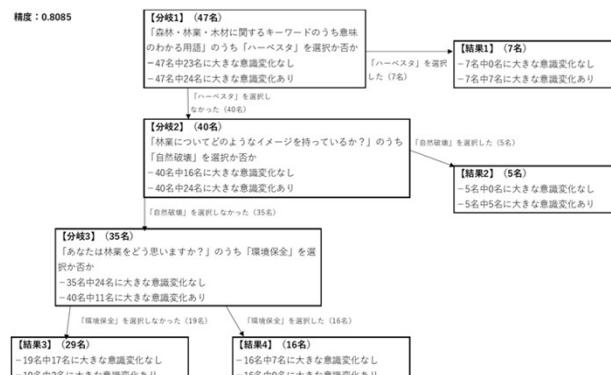
in Japan

■ 講義の結果



- ✓ 47名の学生全員に何らかの意識変化が見られた
- ✓ そのうち約半数は「大きな意識変化」を示した

■ 効果を受けやすい学生の性質



- ✓ もともとの林業への関心が高かった学生が大きな意識変化を受ける傾向
- ✓ 林業に対してマイナスのイメージ(環境破壊)を有していた学生ほど、ステレオタイプを講義で覆され、大きな意識変化を受けている傾向

知本0 These are the results of our lecture regarding forest/forestry to 47 uni students in Tokyo. Me as a government worker, Kawakami-san who runs his forestry business as his side business, and Doi-san who is a member of my NPO gave presentations about our activities related forest/forestry from each perspective.

As a result of the survey and analysis, it was suggested that the lecture led to a "change in awareness" among the students. It was also found that students with a stronger interest in forests/forestry, as well as those with negative perceptions about forestry, experienced a greater "change in awareness through the lecture.

本田 知之(HONDA Tomoyuki),

Outside Japan

- フランスのパリで行われた研究によると、短期間の都市型自然保護教育プログラムは、地域の生物多様性に関する短期的な知識、認識、関心を効果的に高めることができるが、自然保護活動への持続的な関与に対する長期的な影響は限定的であることが示された (Schwarz et al, 2012).
- Kids-to-Forest (K2F) イニシアティブは、アジア太平洋地域において、森林教育、保全、持続可能な森林管理に関する体験学習、提唱活動、パートナーシップを通じて、何千人の子ども、教師、地域社会を効果的に巻き込み、環境意識の向上、学問的利益、政策統合につながった (Durst et al, 2015).



ワークショップの概要



Research method

職員数
約4.6万人

横浜市役所の職員からワークショップの受講希望者を募集

受講者に対して、「ワークショップを受けて、普段の生活に取り入れたいと思ったことがあったか？」などについてアンケートを実施。

① 受講者募集

② ワークショップの実施

③ アンケート

④ 結果&考察

国際機関の外国人専門家から、受講者の生活の中の生物多様性サービスの恩恵などについてコンテキスト学習を提供

アンケートの結果をもとに、ワークショップの効果について考察を行う

ワークショップの概要

- **目的:**

横浜市の職員を対象に、森林と都市生態系の相互関係についての参加型ディスカッションを行い、生態系サービスの役割、価値、影響についての理解を深めること

- **期待される効果:**

- ①環境意識の向上
- ②森林が提供する価値についての振り返り
- ③森林と都市のつながりに関する共通認識の形成
- ④都市内で森林の価値を普及するアンバサダーの育成

- **開催日:** 2025年1月23日 午前10:00～12:00

- **開催場所:** 横浜市 研修センター

- **講師:** Paula Sarigumba (ITTO職員)

- **参加者:** 31名の横浜市職員

- **言語:** 英語(日本語通訳付)

ワークショップの概要

Main modules of the workshop

2025年1月23日午前10:00～12:00

- **'WHAT ARE WE DOING HERE?'**
 - ワークショップに何を期待して参加したかを確認(アイスブレイク)
- **LOOKING BACK TO YESTERDAY** (グループ作業 1)
 - 各自分で昨日の出来事を振り返り、森林から得られる、または森林に関連する有形・無形の財やサービスがなかったかを確認
 - 振り返った内容を紙に書き出して、グループ内で共有
 - グループ毎に話し合った内容をまとめつて互いに発表
- **VISIONING TOWARD THE FUTURE** (グループ作業 2)
 - 将来起こりうる重要な環境の変化や課題やそれに対して何ができるかについてグループ内で討論。また、森林の価値を人々に伝える方法について議論。
 - 各グループで、2050年の横浜市の状況を想像して、『THE YOKOHAMA CITY NEWS』(架空の新聞)の見出しを作成。

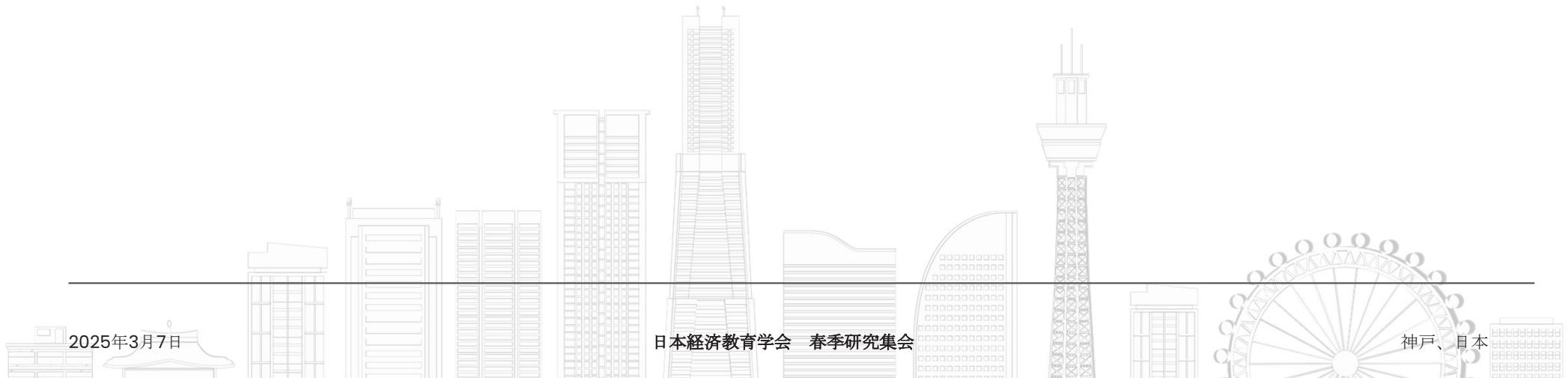
2025年3月7日

日本経済教育学会 春季研究集会

神戸、日本



アンケートの結果と考察



アンケート調査票の項目

問1 所属をご記入ください

問2 生物多様性研修の参加は何回目ですか

- ・はじめて
- ・2回目
- ・3回目
- ・4回以上

問3 本研修を受けて生物多様性への理解は深まりましたか

- ・とても深まった
- ・深まった
- ・あまり深まらなかった
- ・物足りなかった

問4 上記の理由を教えてください【自由記述】

問5 本研修ではワークショップを取り入れましたが内容はいかがでしたか

- ・大変有意義だった
- ・有意義だった
- ・普通
- ・あまり有意義ではなかった
- ・有意義ではなかった

問6 上記の理由を教えてください【自由記述】

問7 本研修を受けて、あなたは普段の生活でなにか実践したいと思ったことはありましたか

- ・生活に取り入れたいことがあった
- ・取り入れたいことがあったが、難しそうだと感じた
- ・特になかった

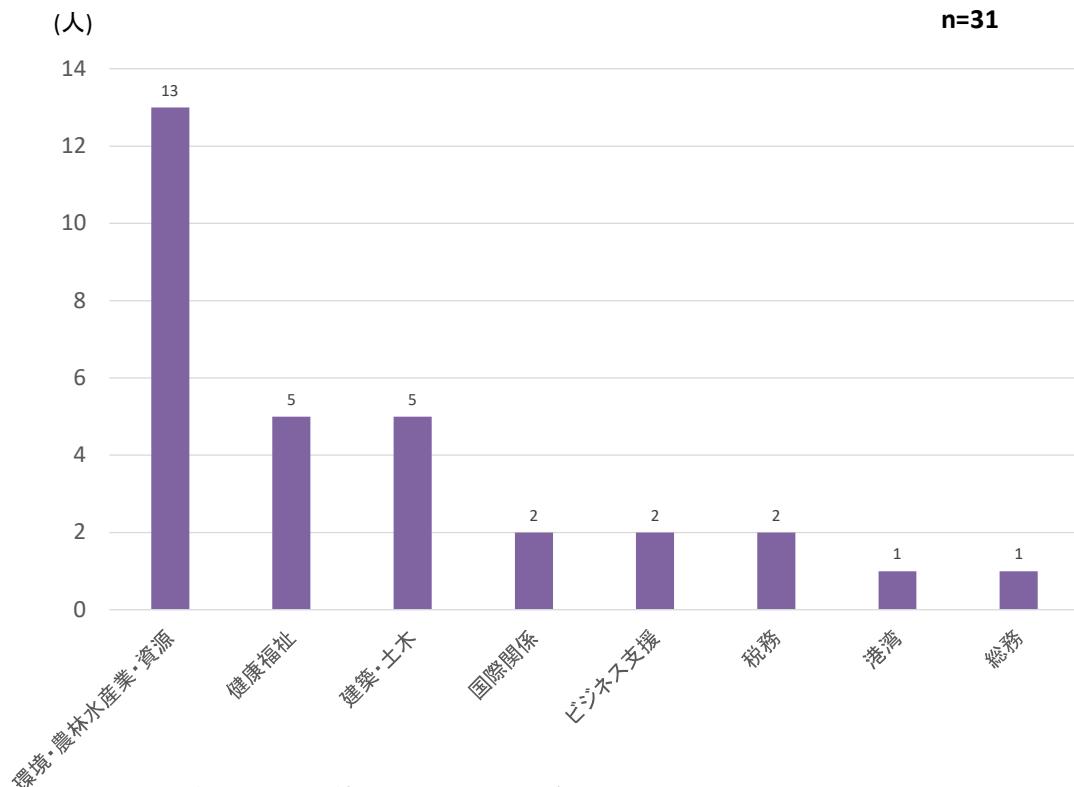
問8 上記の理由を教えてください【自由記述】

問9 生物多様性研修で今後取り扱って欲しいテーマや内容がありましたらご記入ください【自由記述】

問10 その他、本研修に対するご意見がありましたらご記入ください【任意・自由記述】

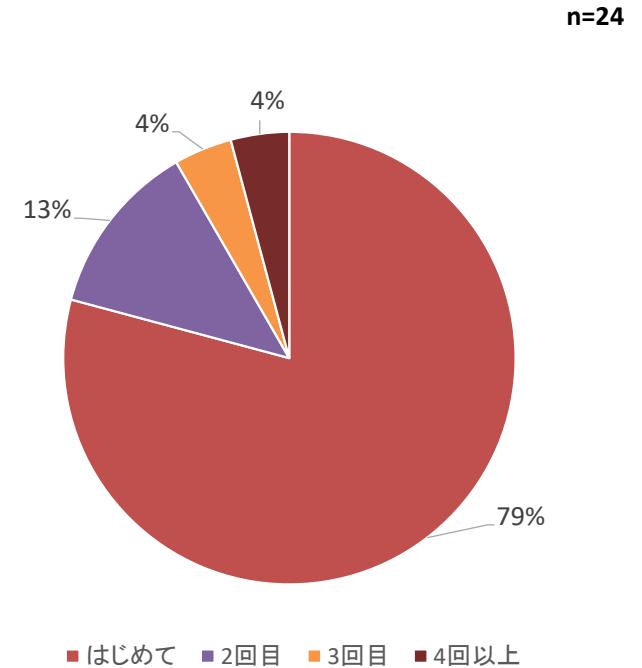
ワークショップ受講者のプロフィール

【問1】受講者の市役所での担当分野



※受講者の所属先情報をもとに報告者が分類した

【問2】職員向け生物多様性研修の受講回数

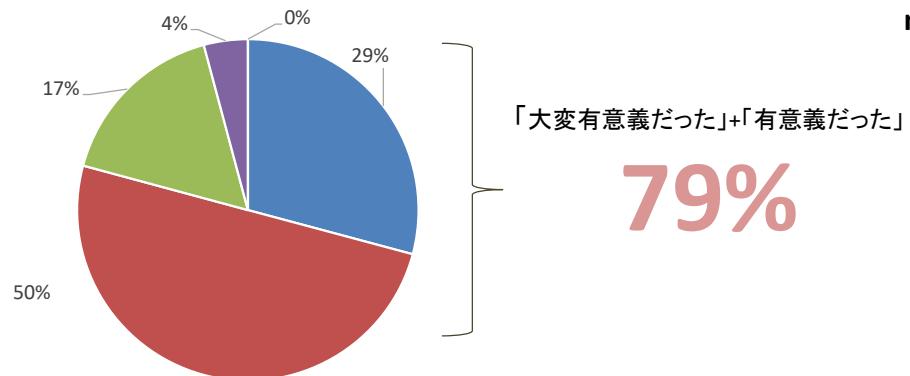


- ✓ 受講者は約4割は環境関連部署所属だが、残りの6割は一般部署所属
- ✓ 職員向け生物多様性研修を複数回受講している職員も一定数いたが、約8割が初受講

受講者によるワークショップの評価

【問5】ワークショップ形式はどうでしたか？

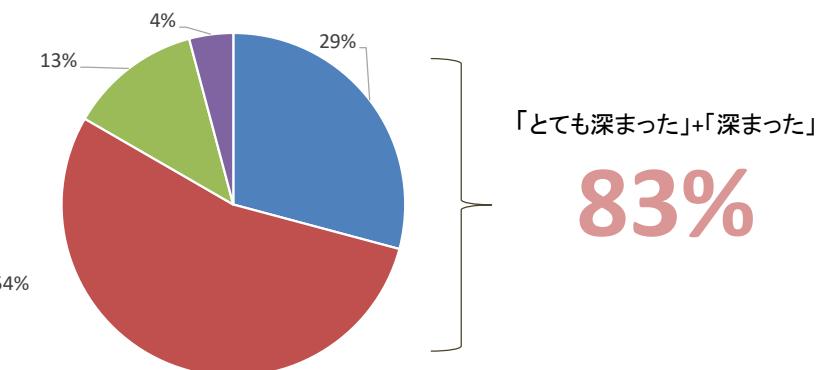
n=24



79%

【問3】生物多様性への理解は深まりましたか？

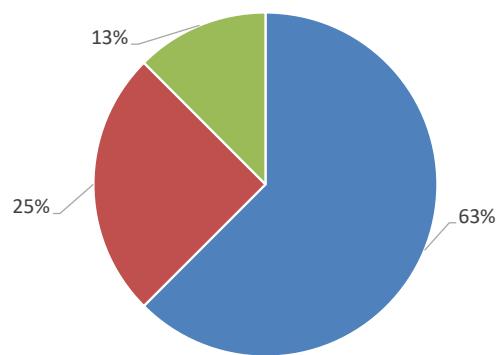
n=24



83%

【問7】あなたは普段の生活でなにか実践したいと思ったことはありましたか？

n=24



- 生活に取り入れたいことがあった
- 生活に取り入れたいことがあったが難しそうだと感じた
- 特になかった

【問6】ワークショップ形式だったことに関する関するコメント

n=14

- ・参加者の発言や発表に対するファシリテーター(パオラさん)のユーモアのあるポジティブなフィードバックが良かった。
- ・研修終了後も、森林や樹木と日々の生活について考え、気づくことがあった。また、ほかの参加者の意見を聞くことで、自分では気づけないことに気づくことができた。
- ・外国の授業を受けている印象。自分は人前で話すのが苦手なので、率直にいってあまり得意ではないけれど、座学でただ聞いているよりは楽しくて自分の頭を使って考える良い機会になりました。
- ・ただ話を聞くよりも、ワークショップ形式でいろいろな意見がでたので、自分にはなかった視点などにも気づかされてよかったです。
- ・木材だけでなくゴムなどの加工品も樹木がないと生成できないことは知識としてはあったが、研修内で身の回りの木に関することで思い浮かべられなかった。改めて、樹木が自分たちに与えている恩恵について意識することができた。
- ・違う局の人達と普段は会話が無いが一つの課題についてトークができた。
考える機会が増える
- ・通常は講義～ワークショップのパターンの研修が多いような印象だが、ワークショップを先にすることで講義の前に自分自身で考える時間があったので今回のような研修のほうが我が事として考えられる。
- ・国際機関の外国人講師による明るく楽しい進行が新鮮で良かったです。
- ・貴重な講演の機会のため、より専門的な話を聞いたかった。
生活中で木から連想する物などを出し合う主題であったが、熱帯林由来の木材や果実が生活と直結していることは、ある程度理解はしているので、物足りなかった。もう少し、造園職や関連業務に携わる職員も多く見受けられたので、もう少し専門的な講義をしていただければ身になったかもしれません。
- ・とても楽しかったです。一方的に講義を聴くだけでなく、まずは自分の生活から森林について考え始めることができたのがとてもよかったです。ITTOの皆さんも、さすがの盛り上げ力で明るく楽しい雰囲気を作ってくれたり感動しました。
日常生活での森林との関わりについて、自分で考えたり他の方の意見を聞いたことで、自分が見落としていた点がいくつもあることに気がつきました。日常生活では忘れてしまうほどに、森林はあらゆる面から私たちの生活を支えているということをワークショップを通して実感することができました。
- ・自分事として研修内容を日常生活や業務の場面に落とし込んで考え、意見共有することができたため。
- ・他局、他部者の人たちの考え方や発想を聞くことができた。
- ・明るい空気感だったので、皆リラックスして自分の意見を出せたと感じたため
- ・他の人の意見を聞けたから

ワークショップ形式への記述コメント

A. 森林生態系サービスを「ジブンゴト」として考えられたコメント

分類定義	単なる知識習得ではなく、研修のテーマをジブンゴトとして捉え、実生活や仕事の中で意識することができたかに焦点を当てたもの。
具体的なコメント	研修終了後も、森林や樹木と日々の生活について考え、気づくことがあつた

B. 講師の人柄や外国人であることによる効果へのコメント

分類定義	講師の人柄や外国人であったことによる研修の新鮮さ、楽しさ、異文化的な視点について言及している。
具体的なコメント	外国の授業を受けていた印象。自分は人前で話すのが苦手なので、率直にいってあまり得意ではないけれど、座学でただ聞いていたりは楽しくて自分の頭を使って考える良い機会になりました。

C. 他の受講者の意見を聞けたことの効果についてのコメント

分類定義	他者の考え方や視点を共有することで、自分にはなかった気づきや学びを得られたことを評価するもの。
具体的なコメント	他局、他部者の人たちの考え方や発想を聞くことができた。

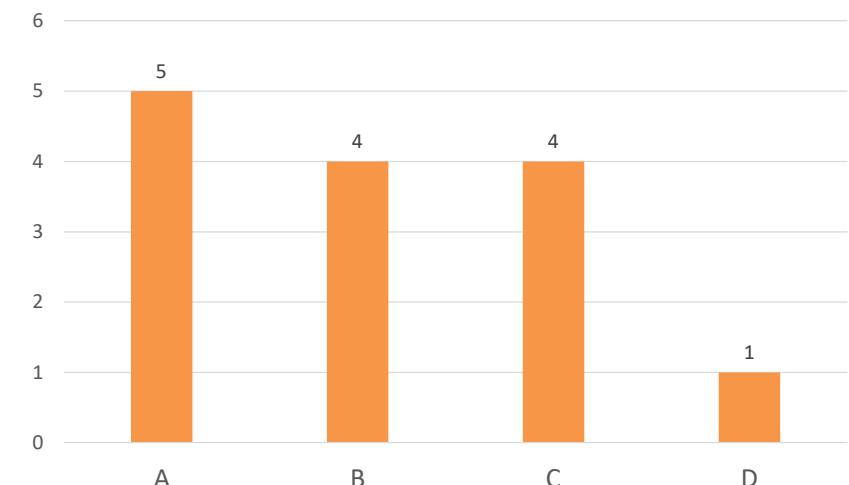
D. もっと専門的な内容を聞きたかったというコメント

分類定義	ワークショップ形式ではなく、専門的な講義を求めるもの
具体的なコメント	造園職や関連業務に携わる職員も多く見受けられたので、もう少し専門的な講義をしていただければ身になった。

※各コメントについて、A～Dのいずれか1つに分類

記述コメントの分類結果

n=14



- ✓ Aのコメントが最多となり、ワークショップが生物多様性サービスをジブンゴトとして認識させる効果があったことが示された
- ✓ 講師が外国人であったことや他の受講者の意見から新鮮さを得ているコメント(B、C)も見受けられた。
- ✓ 一方、生物多様性についての知識のある者からは、専門的な講義を求める声も見られた(D)。

【問4】生物多様性への理解に関するコメント

n=14

- ・ITTOの事業について学ぶことができたのは成果であったが、生物多様性そのものの意義や重要性についてはこれまでの知識を深めるには至らなかった。また、ワークショップに時間が割かれたため講義の時間が短く、講義そのものも通訳を介しながらであったためか、十分に趣旨が伝わりにくいと感じた部分もあり、もどかしく感じた。
- ・有意義な研修内容だった。"Regulating Services"などの定義が難しかった。各サービスの例として、具体的なイメージ(写真、イラストなど)があるとより理解が深まったかもしれない。
- ・研修を通して、森林や樹木が日々の生活にどのように関わっているか、改めて考えることができた。また、森林を守ることが、人間をはじめ様々な生物の生活環境を守ることにつながることも理解できた。しかし、「生物多様性」そのものについてはあまり触れられていなかつたように感じた。
- ・ITTOの皆さんフレンドリーな様子が非常に楽しかったです。きっと日本の公務員は反応が薄くてつまらないと感じたのではないかと思いますが、ポーラさんが一生懸命にお話してください、熱意が伝わりました。木材など目に見える形だけでなく、アロマや森林浴、コーヒーなど目に見えない形でも森林が役に立っているというのは本当にその通りだなと思いました。卸売市場でも青果物や水産物の廃棄の問題があります。リサイクルの取り組みができるといいなと感じました。
- ・国内の取り組みについてはいくつか知っていたが、今回熱帯雨林を中心とした国際的な取り組みについては知らないことが多かったので参加できてよかったです。¹
- ・熱帯雨林、密林地帯がいかに重要なのか
- ・ワークショップで考えて発表するので、聞いているだけの研修より考える機会が多くた
- ・身近な生活と生物多様性の関係を理解した。コーヒーやチョコレートが食べられなくなる心配
- ・生物多様性の中でも、特に「木」にスポットを当てて、木材が生活の至るところで欠かせないものであることとともに、熱帯森林に関する様々なデータ、生産国と消費国との連携の必要性などを学ぶことができました。
- ・業務上、認識している内容が多かったです。再認識できました。ただし、熱帯林と生物多様性がどのように関連しているか、実例も含めた講義があまりなかったので残念です。ITTOの具体的な取り組み事例や改善結果を、映像や数字も含めて示してもらえたと、仕事にも活かせるのではと思いました。
- ・「生物多様性」という言葉はよく聞くけれど、具体的なイメージや自分との繋がりが掴みにくい面がありました。今回は「森林」というキーワードで取り組んでみて、自分の日常の中で森林が色々な役割を果たしてくれていることに改めて気づくことができました。
- ・市内にある国際機関ITTOの木材を中心とした環境保全に関する取組の意義を理解できただため。
- ・生物多様性という言葉よりも、熱帯雨林における国際的な問題についてフォーカスしていたように感じました。普段は身近な森林(狭い世界)にしか目が行っていなかったけれど、世界の森林が身近な生活の場面で関わっていることを再認識できた。
- ・生物多様性と身近なものとのつながりの講義を受けたときに自分とのつながりが消費にかいたよっていると気付き、気を付けようと思いました。

生物多様性への理解の深化に関する記述コメント

A. 生物多様性への理解が深まった

分類定義	研修を通じて、生物多様性そのものの意義や重要性についての理解が深まったことが明確に示されているコメント。
具体的なコメント	熱帯雨林、密林地帯がいかに重要なのか

B. 生物多様性と自分の生活のつながりを認識した

分類定義	研修を通じて、自分の生活と生物多様性(生態系サービス)がどのように関わっているのかを実感し、身近な問題として認識できたコメント。
具体的なコメント	「生物多様性」という言葉はよく聞くけれど、具体的なイメージや自分との繋がりが掴みにくい面がありました。今回は「森林」というキーワードで取り組んでみて自分の日常の中で森林が色々な役割を果たしてくれていることに改めて気づくことができました。

C. 知識の確認・再認識にとどまった(新たな気づきが少ない)

分類定義	研修内容が自身のこれまでの知識と重なり、主に既存の認識を再確認する形になったコメント。学びはあったものの、新たな発見や大きな意識の変化が少なかったことが示されている。
具体的なコメント	業務上、認識している内容が多かった。 再認識できました。ただし、熱帯林と生物多様性がどのように関連しているか、実例も含めた講義があまりなかったので残念です。ITTOの具体的な取り組み事例や改善結果を、映像や数字も含めて示してもらえると、仕事にも活かせるのではと思いました。

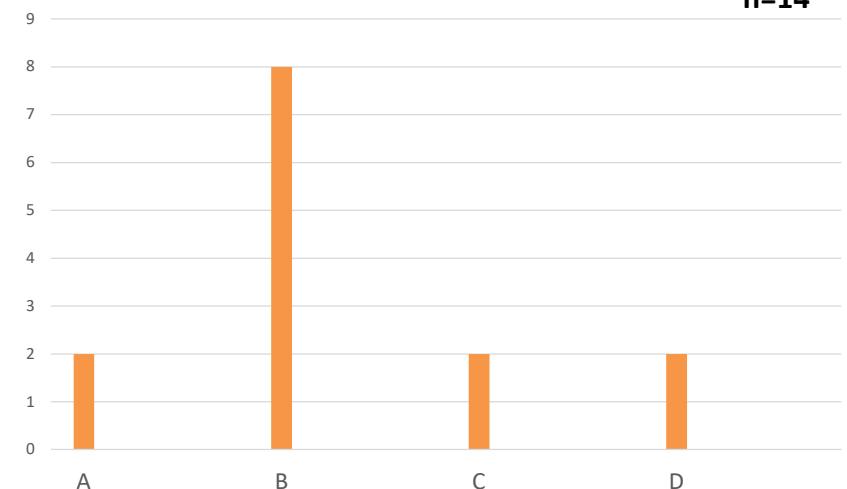
D. 研修や講師についての意見

分類定義	講義の分かりやすさや構成への評価が主であり、学びの内容よりも研修の形式について言及しているもの。
具体的なコメント	ワークショップで考えて発表するので、聞いているだけの研修より考える機会が多くった

※各コメントについて、A～Dのいずれか1つに分類

記述コメントの分類結果

n=14



- ✓ Bのコメントが8つと最多となっており、この研修が、生物多様性を身近なものと感じさせる効果があったことが示唆された
- ✓ 生物多様性の理解の深化に関するコメントは2つに留まり、無形の生態系サービスのイメージの把握に苦労するコメントも散見された。

【問4】普段の生活でなにか実践したいことはあったについてのコメント

n=17

- ・口にするものについて、その生産、輸送、加工、流通、販売の過程に関わる天然資源や労働者を考える。食の選択において、価格、見た目、味、ブランドだけでなく、生産・製造方法、労働環境も基準としたい。
- ・仕事の中で、なるべくペーパーレスを心掛けているが、上司が紙ベースの決裁を好むので、難しいと感じている。
- ・紙を無駄使いしない、自然の恵みを粗末にしない、そういうことが生物多様性を大事にすることにつながるという気づきがあったので。
- ・普段の生活で見て触れているものについて、これは熱帯雨林の樹木からしているのかと意識してみてみたいと思った。
- ・身近なことに目を向けていくことが大切だと感じたから
- ・カーボンニュートラルを実施する際の温度設定だったりペーパーレスにしたいが紙の方が読みやすかったり
- ・生物や植物への意識は向くが行動へのつながりがよく分からなかった
- ・ペーパーレス化の推進 生物多様性についてもっと知りたいと思う
- ・コーヒーでも家具でも、環境にやさしい商品を消費しようと思いました。
- ・フェアトレード商品を購入しようかと思いました。
- ・改めて森林との関わりを考えてみると、毎日身近なところに木が寄り添ってくれていることに気づきました。生きること(水や空気など)、生活(住居、食べ物、食器など)に必須なのは勿論、癒し(チョコレートやコーヒーなど)やパワーチャージ(森林浴など)にも多くの貢献をしてくれています。ITTOは、森林自体を守ることを始め、森林に関わる人々の命や生活を守ることにも尽力されているという話が印象的でした。私たちが木から貰っている恩恵を継続していくために、自分勝手に消費したり生活するのではなく、周囲の環境や人々にも配慮をしながら、「みんなで生きているんだ」という認識を持って暮らしていきたいと思いました。
- ・ポーラさんのお話の中で、不法伐採ではない正しいルートで作られた紙であれば使ってもいいと仰っていました。実際に今庁内で使っている紙がどのように生産されたものなのかわかりませんが、普段使用するあらゆる商品について、正しいルートで生産されたものをできるだけ選ぶようにすれば、森林保全の一助となるのではないかと考えました。A
- ・仕事場でのペーパーレスの必要性を感じたが、業務の特性上急激に推進することが困難であると感じるため。
- ・講師から、適切に管理されている木材を使用した紙は使ってよいとのお話をいただきましたが、それを普段の生活の中でどのように選べばよいのか、説明をいただければ、取り組みもできるのではないかと思いました。
- ・取り入れる気持ちはあるが、すでにやれる範囲のことはやっているつもり。こういう人が更にやれることがあれば知りたい。
- ・普段から割り箸を使用することが多いためMY箸の活用などで使用頻度を現象していきたい。
- ・生活の中で意識しようと思いました。

普段の生活で実践したいことについての記述コメント

A. 具体例を挙げて、前向きに取り組む意向を示しているコメント

分類定義	具体的な行動例を挙げ、積極的に取り組もうとしているもの
具体的なコメント	コーヒーでも家具でも、環境にやさしい商品を消費しようと思いました。

B. 具体例を挙げているが、取り組むことに困難さを示しているコメント

分類定義	具体例を挙げているものの、何らかの理由で取り組みに難しさを感じているもの
具体的なコメント	仕事の中で、なるべくペーパーレスを心掛けているが、上司が紙ベースの決裁を好むので、難しいと感じている

C. 具体例を挙げて、環境意識を述べているコメント

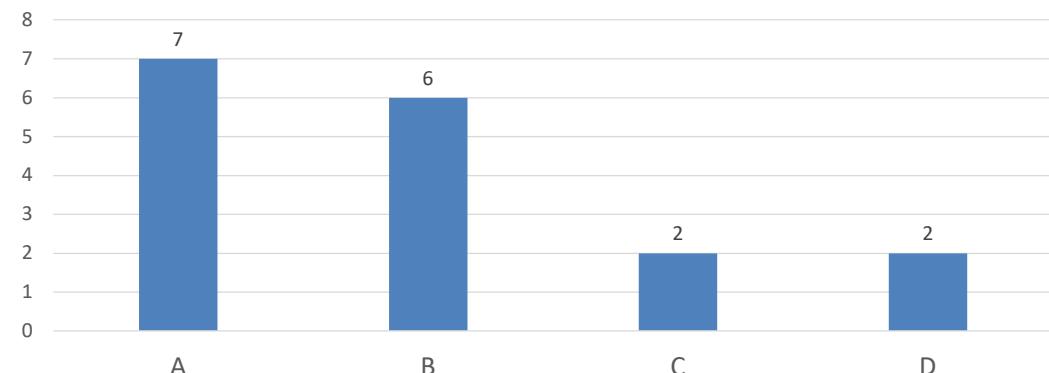
分類定義	具体例を挙げつつ、実際の行動よりも環境への意識に重きを置いているもの。
具体的なコメント	普段の生活で見て触れているものについて、これは熱帯雨林の樹木からきていたのかと意識してみてみたいと思った

D. 具体例を挙げていないコメント

分類定義	具体例を挙げずに、漠然とした意向を示しているもの。
具体的なコメント	身近なことに目を向けていくことが大切だと感じたから

記述コメントの分類結果

n=17



主な、受講者が普段の生活で実践しようと考えたこと

- 環境負荷の低い商品の購入
- ペーパーレス化
- エアコンの温度設定
- MY箸の使用

- ✓ 市役所の研修であったが、一般的な生活者の延長戦上の発想に留まっていた。
- ✓ 市役所の政策立案に繋げてもらうには、さらなる工夫・誘導が必要であることが示唆された。

※各コメントについて、A～Dのいずれか1つに分類

【問10】その他、本研修に対するご意見がありましたらご記入ください

1. 研修の内容・学びについての感想

- 研修が有意義だった、学びがあった
- 生物多様性について考えるきっかけになった
- ITTOについて知ることができた

2. 運営・改善点に関する意見

- 英語通訳によるタイムロスに関する意見
- マイクをもっと準備すべきだったという指摘
- 研修中の写真撮影・公開についての意見

3. 感謝・ポジティブなフィードバック

- 研修や講師への感謝の言葉
- 研修が楽しかったという意見
- 英語や異文化に触れられたことへの評価

6

講師によるリフレクション



- グループ演習を通じて、参加型ワークショップが日本の都市環境においても効果的であることが強調されました。実践的な創造的活動(未来の新聞の見出し作成など)が、グループの中で率直な意見を引き出す手助けとなることが示されました。
- 参加者は(木材のような)森林の有形の恩恵を容易に理解できた一方で、(水や空気浄化のような)無形の恩恵を説明することはより困難であることを感じました。特に熱帯林の恩恵について議論する際には、それがより遠い存在に感じられるため、その傾向が一層顕著でした。
- 講師が日本語を話さない外国人であったため、ワークショップの成功は効率的な翻訳に大きく依存していました。横浜市民にとって身近な逸話を用いて情報をつなぎ、技術的な概念をわかりやすい言葉に簡略化することが重要でした。

2025年3月7日

日本経済教育学会 春季研究集会

神戸、日本

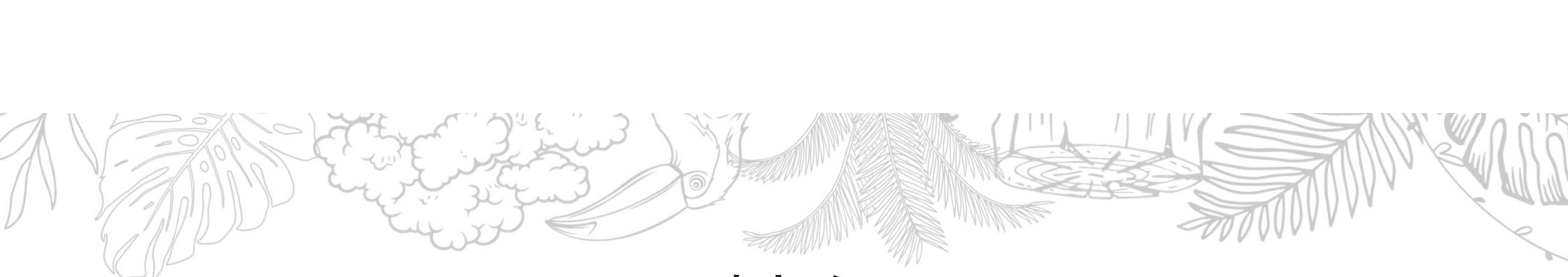


考察

1. アンケート調査の結果、コンテクスト学習型のワークショップは、都市住民に「森林生態系サービス」を感じさせる効果があることが示された。一方、生物多様性について精通している者にとっては物足りない内容であったことが示されており、参加者知識レベルに合わせた学習コンテンツの開発やクラス分けなどを行うことが課題として示唆された。
2. 「熱帯林の無形の生態系サービス」のように日本の都市住民にとって一見縁遠い内容については、受講者の身近な体験との結び付けが難しく、研修室(教室)内でのコンテクスト学習的アプローチがうまく機能しにくい可能性が示唆されました。
3. 講師が外国人の専門家であったことに対しては、多くの参加者は「新鮮さ」、「英語に触れる機会」、「異文化体験」などのポジティブなコメントがほとんどであったが、通訳を介してのコミュニケーションに多少のフラストレーションを感じていることを示す意見もあった。



2. 及び3. の課題に関しては、言語情報に加え、視覚的資料(画像、グラフ、動画など)を効果的に活用すれば、学習効果を補完できるかもしれない



まとめ

- ・持続可能な都市には、統合的な森林管理戦略が不可欠である。持続可能な森林の実現には、都市と国外も含めた森林のつながりを政策や実践に効果的に組み込む必要があります。これを達成するためには、教育と認識の向上が重要であり、公共の認識を形成し、意味のある変化を促すことが求められます。
- ・特に、若い人々を対象とした都市住民向けの森林教育への投資は、環境に対する態度、視点、行動を形作るために重要です。それにより、自分たちのライフスタイルと環境への影響とのつながりについての包括的な理解を提供されます。
- ・森林環境教育を効果的に実施するには、教育コンテンツと対象者の双方を踏まえた教育プログラムの設計と実践が必要です。本報告は、外国人専門家による日本の都市住民に対するコンテクスト学習的アプローチの効果と課題を示すことで、その一助を提供しました。



参考文献

本田知之・川上泰昌・佐藤大樹・赤石秀之・土居拓務(2024)「日本の森林資源・林業の実態から都内の大学生は何を学べたのか？－資源経済教育の実践的な価値と教育上の課題」第40回経済教育学会全国大会 2024年9月

農林水産省(2023)「森林と生活に関する世論調査」<https://survey.gov-online.go.jp/r05/r05-sinrin/#T2>(閲覧日:2024年9月1日)

林野庁「森林・林業教育の推進」https://www.rinya.maff.go.jp/j/ken_sidou/fukyuu/230329_18.html
(閲覧日:2024年9月1日)

Durst, P. B., Khim, W., & Martires, J. B. (2015). *Kids-to-Forests initiative: Building awareness and support for sustainable forest management in Asia and the Pacific*. XIV World Forestry Congress, Durban, South Africa, 7-11 September 2015.

Food and Agriculture Organization of the United Nations. (2020). *The state of the world's forests 2020: Forests, biodiversity and people*. FAO. <https://doi.org/10.4060/ca8642en>

Shwartz A, Cosquer A, Jaillon A, Piron A, Julliard R, Raymond R, et al. (2012) Urban Biodiversity, City-Dwellers and Conservation: How Does an Outdoor Activity Day Affect the Human-Nature Relationship? PLoS ONE 7(6): e38642. doi.org/10.1371/journal.pone.0038642



2025年3月7日

日本経済教育学会 春季研究集会

神戸、日本



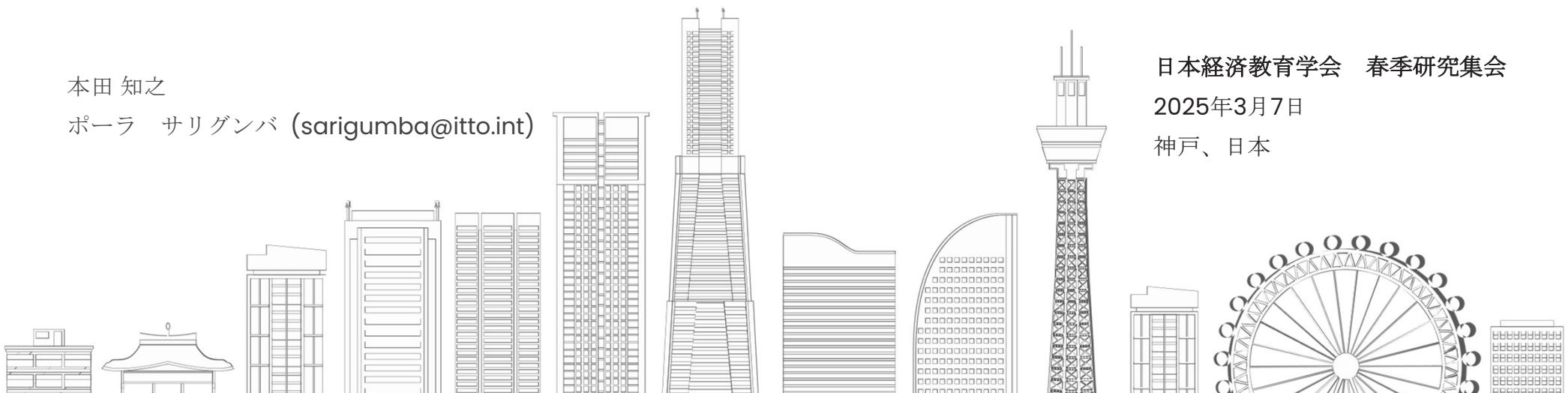
thank you

ありがとうございます

salamat

本田 知之

ポーラ サリグンバ (sarigumba@itto.int)



日本経済教育学会 春季研究集会

2025年3月7日

神戸、日本